

2021年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	代表者	施設長 門田眞吾	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた地域で安心して暮らすことを支援します。 あすならでは、「10の基本ケア」をもとに、当事者の「普通の暮らし」を考え、その人らしく生活ができるように「自立支援」を実施します。 榎原神宮や畝傍山に近く。住宅地に馴染んでいる施設です。
事業所名	あすならホーム 畝傍	管理者	坂本祥一		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価 の確認	<ul style="list-style-type: none"> 職員自己評価の結果を職員に周知し改善計画を実行する。 研修に参加できるように職員体制を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員自己評価の結果の周知が不十分であったが改善に向けての取り組みは行えた。 シフトを工夫して研修に参加することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修に関しては ZOOM 研修も望まれているので活用してはどうか。 人としての人権が守られていることの大切さが伝わってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員自己評価の結果を職員に周知し改善計画を実行する。 ZOOM でも参加できる研修を職員に周知して参加を呼びかける。
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 玄関先に看板があるので、気軽に入ることができる。 玄関も開放していることが多く、外部の方でもインターフォンを押さずに入って来られる方も多い。 玄関の立ち入りやすい環境を再度見直し、「インターフォン押してください」等貼り付けします。 ホーム内は引き続き清潔感を保ちます。 ホームの外の草引きや掃除に関しては、ホーム内で協議して、当番制で掃除するなど検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> できている。 ホーム外の草引きに関しては職員の空き時間に草刈り機にて行っているが当番制ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> アプローチには四季に合わせた花が、玄関に入ると利用者の作品が飾られており思いが感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 玄関、ホーム内の環境整備を行い清潔感を保つ。 季節に合わせた花を植えたり、生けるなどして温かい雰囲気づくりをする。 利用者が主体的に過ごせるようにホーム内の環境を工夫する。



<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であってもできないかを検討し、地域とのつながりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため地域での活動も自粛している現状であるが、毎週火曜にホームに移動店舗が来る際に「青空相談室」として、看護師やケアマネが立ち合い、地域の方々の相談や情報収集を心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の介護医療サービスの有効活用や、利用者や家族さんの状況に併せた適切なプランニングの組立てや、職員同士の声かけで利用者の情報共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動店舗に合わせて地域の方と交流したり、コロナ禍であってもできないかを検討し、地域とのつながりを深める。
<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を歩いたり、職員それぞれがアンテナをはり、小さな事でも良いので地域の情報収集をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長に会って認知症の利用者が自宅で暮らすことに理解を得ることができた。 ・まだまだ地域資源の情報が得られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で地域のかかわりが少なくなる中でも、利用者の自宅での過ごし方や地域の情報を得ようと努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員や近隣の住人や行きつけのお店などの理解を得て連携する。 ・自治会などのイベントに少人数で参加できれば参加する。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であっても個々に、老人会や民生委員や行政と情報交換を行い運営に反映する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため運営推進会議が中止となっている。 ・個々に情報交換をするように努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、地域の方と関わりを持とうとしている姿勢や、移動販売時には地域の方との交流やサロンでの体操は週1回ではあるが開催できるようになった。 ・法人の全体方針や事業所のあり方について声を出そうとする姿勢は、これからの事業所にはプラスになると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であっても個々に、老人会や民生委員や行政と情報交換を行い運営に反映する。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練などを通じて、職員に防災計画や災害時の対応を周知する。 ・備蓄品などの整備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を行っているが、コロナ禍のため地域の方々の参加は働きかけていない。 ・介護保険制度においてもBCPが必要項目となるため。今後、法人、事業所としてもBCPを詳細に立てるために動き出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災時に地域の拠点となることを常に念頭においているところをこれからも大切にして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練などを通じて、職員に防災計画や災害時の対応を周知する。 ・BCPにおいて、詳細かつ明確な計画を立て、備蓄品などの整備をする。